

第 11 部門 揖保川水系のアンケート調査からみた河川の人気度について

神戸市立高専 フェロー 辻本剛三
 神戸市立高専 正会員 日下部重幸
 神戸市立高専 正会員 柿木哲哉

1. はじめに

河川法の改正に伴い治水・利水・環境の観点から、河川整備を行う際には地域住民の意見等を反映させる必要が生じた。そのため揖保川においても今後 20～30 年にわたる河川整備計画（治水・利水・環境）に対して兵庫県がアンケート調査を実施した。本研究では、アンケート調査の概要と流域内の河川の人気度について報告する。

2. アンケート方法

揖保川流域には大小 47 の河川が流れ込んでおり、その河川流域の小学生 5、6 年生、保護者、小学校の先生、地区別懇話会参加住民を対象に平成 16 年 9 月～11 月に実施した。表 1 にアンケートの配布数と回収率を示す。アンケートは大人用と子供用に分け、住居から最寄りの川とよく出かける川を対象にして治水・利水・環境に関する項目について調査した。

表-1 アンケート配布数

	子供	保護者	教員	懇話会	計
配布数	3378	6756		38	10172
回収数	3176	4570	376	19	8141
回収率	94.0%	67.6%		50.0%	

3. 結果と考察

3.1 治水：最寄りの河川に対して洪水の心配をしていない人は約 22%であり、心配している人は約 17%である。前者のうち半数が洪水の経験がないことを根拠とし、河川改修や護岸工事のような河川整備から派生する安心感と同程度である。後者に関しては過去の経験や予想外の降雨に対する恐怖感、河川の未整備などから判断している。そのために護岸整備と洪水の氾濫地域の情報提供を望んでいる。

3.2 イメージ：川のイメージを図 1 に示す。生態系が豊かな場所と危険で汚い場所の両方のイメージを最寄りの川に抱いており、前者は上流域、後者は下流域に多い。この傾向は大人と子供に差異はない。ただ、大人が人工的と感じている場所を子供は感じておらず、川に対する原体験の違いによると推定される。

3.3 川の水量・水質：水量に関しては上、下流では

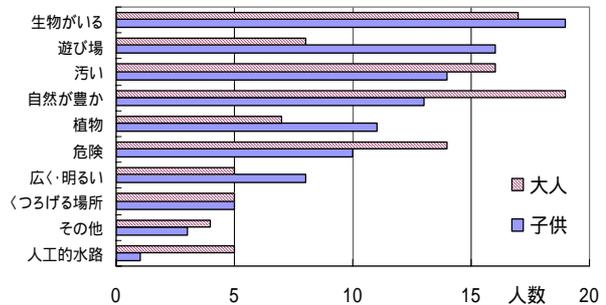


図-1 川のイメージ

満足しているようであるが、中流域は不足気味であると感じている。水質に関しては約半数が満足をしていおらず、下流に行くほどその傾向が強くなっている。

3.4 風景：約半数が最寄りの川風景に対して不満感、1/4 は満足感を抱いている。図-2 に示すように、不満の理由はゴミや雑草のような直接的な負の要素であり、満足な理由は自然の豊かさや風景の調和である。

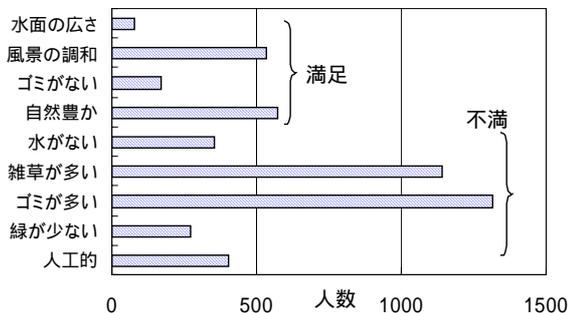


図-2 川の風景の満足・不満理由

3.5 利用(親水)：川に出かけない理由として“出かけたと思わない”が最も多く、理由は不明である。明確な理由として危険・汚いが多く、アクセスの悪さもある。川は汚くて危険のイメージが当初からあるのかもしれない。下流域でこの傾向が強い。子供も同様な理由であり、さらに“川には近づいてはいけない”、“禁止されている”といった理由もある。そのため、川で遊んだことのない子供の割合が下流域で高い。

出かける頻度は大人・子供共に年数回程度で全国平均並みである。目的は大人・子供ともに水遊び・魚釣が極めて多く、大人はさらに散歩等の直接水面を利用しない目的が最も多い。そのために利用している場所は水際、河原、水中などであり、下流に向かうにつれ

て利用する場所が水際から離れていく傾向がある。

4. 川の人気度

アンケートでは“最寄りの川”と“出かける川”をそれぞれ選択しており、“出かける川”÷“最寄りの川”の割合を人気度とした。人気度 > 1 は流域住民数以上に人が集まる川、人気度 < 1 はその逆である。図-3の横軸は人気度の対数表示、縦軸は上が上流、下が下流である。人気上位は福知川・音水川・梯川、下位は馬路川・小犬丸川・上笹川であり、上流の川が人気ある。下流域では中川・三森川以外は人気度が1以下である。また、音水川は大人、皆木川・梯川は子供に人気があるようである。これらの要因を分析するために、

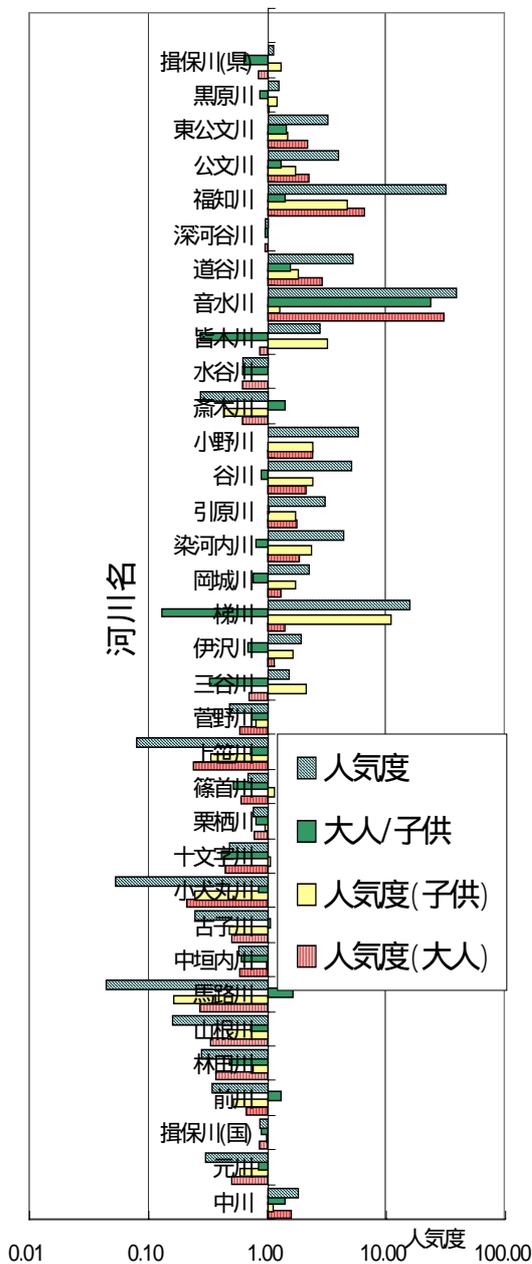


図-3 揖保川流域河川の人気度

前述の質問項目（治水、水量、水質、生物、利用、風景）を点数化し、主成分分析を行った結果を図-4に示す。横軸の正側には治水があり、安全性の軸であり、

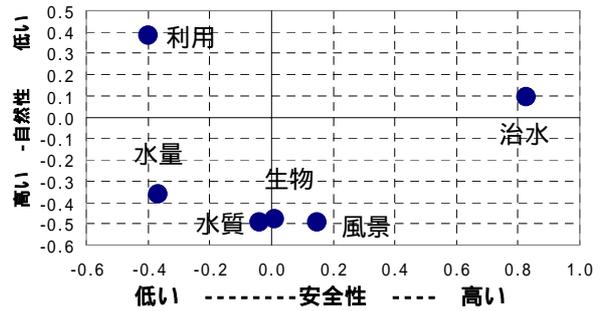
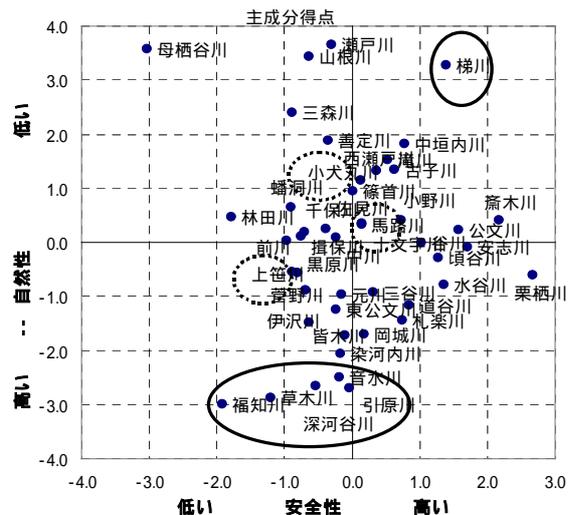


図-4 主成分分析結果

縦軸は負側に自然の度合いを項目があり、自然性の軸とした。図-5には各河川のスコアの分布を示す。図中の実線の円は人気の高い河川、点線の円は人気の低い河川であり、自然性の高い河川に人気が集まっている。一方、不人気の河川は安全性・自然性ともに低いことがわかる。梯川は自然性が低い正側に分布し、別の魅力があるのかもしれない。



5. まとめ 図-5 各河川の散布図

アンケートを通じて人を川に惹きつける要素として、自然性が改めて重要であることが解った。しかしながら、世代によっては好みに差があり自然性以外の要素の重要性も改めて確認できた。

謝辞：本研究の一部は「兵庫県揖保川水系河川整備計画」によるものであり、兵庫県龍野土木事務所よりアンケート調査結果の提供をいただいた、ここに謝意を表します。